

リスク管理

今、地域では災害や犯罪、環境問題、高齢者福祉、子育て、教育など様々な局面でリスクと隣り合わせにある。災害や犯罪は確率は高くはないものの人命に関わる極めて重大なリスクである。一方地域の環境や子育て、教育などの現場では相対的に高い確率で即甚大な影響には至らない多様なリスクを内包している。ただしその多くは介護保険や各種の公的サービス、さらには多様な民間サービスを受給する(例・公的教育によって希望する大学進学がままならないと考えるのであれば私立に通わせればよい)ことでリスクヘッジが可能となっている。

◇

それでは災害や犯罪に対して我々はどう対応すべきなのか。一般的にこ

リスクマネジメント

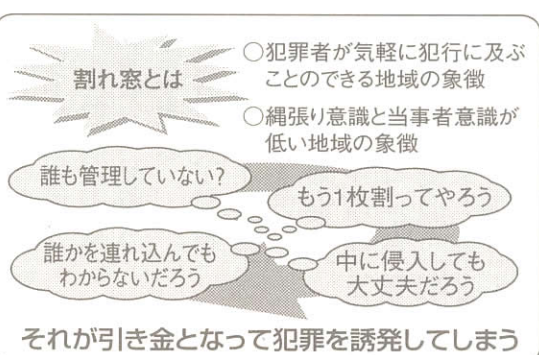
ABC

地域コミュニティー

「割れ窓理論」で安全確保

のようリスクは、その発生自体はコントロールできないため、発生した後の対応(備え)に注力することがリスクマネジメントの基本となっている。地域の防災・防犯計画はまさに「備え」の形式化である。

逆に言えば割れた窓が1枚もないビルは「管理が行き届いているな」「忍び込めないだろう」というように、犯罪者が犯罪を起こすことのできないビルであり、このような地域は彼らにとってやっかいな地域すらまっています。



「割れ窓理論」(図参らない)地域ということになる。これは、犯罪の発生そのものをコントロールしようという踏み込んだリスクマネジメント意識」と「当事者意識」が低い地域の象徴であり、犯罪者が気軽に犯行に及ぶことのできる地域の象徴である。日本の古きコミュニティは、共同体としての強い人間関係を背景に、コミュニティ内の住民の些細なルール違反が犯罪のような重大なルール違反に「成長」する前に、自然とその芽を摘み取っていくような機能を持っており「割れ窓理論」を実践していた。しかし、都市化や核家族化などの影響もあり、人間関係の希薄化が進んでしまった現代では、すでに「安全神話」は崩れてしまっている。

地域コミュニティにおける人間関係が良好であれば、災害発生時にも「お隣のおばあちゃんの姿が見えない」といった周囲の早期の気づきにつながり、影響度を下げることにつながるわけである。

自分の家族や自分自身が「未来の被災者や被害者」にならないためには、もう一度地域コミュニティの力をエンパワーメントする必要がある。そのためには、地域コミュニティにおける人間関係を修復する、すなわち毀損したソーシャル・キャピタル(社会関係資本)を今一度醸成していくことが肝要である。そのことが地域コミュニティにおける一歩踏み込んだリスクマネジメントとなるであろう。